



第99回九州林政連絡協議会の模様＝熊本県八代市

議題は「森林資源の成熟と齢級

ました。

今年度の主な

人工林が本格的な利用期を迎えた九州において、全国に先駆けて林業の成長産業化や循環林業の実現を図ることが重要であり、木材の力スケード利用や低質材の需給調整、再造林対策にかか

る苗木の供給な

どの課題に各機

関が連携して取

り組むことが必

要であると述べ

ました。

今年度の主な

議題は「森林資

源の成熟と齢級

ました。

今年度の主な

議題は「森林資

源の成熟と齢級

ました。

今年度の主な

第99回九州林政連絡協議会を開催

構成の平準化に向けた課題と対策」で、まず各県の木材需要量及び素材生産量、

第99回九州林政連絡協議会が8月21日と22日の両日、熊本県八代市において開かれました。この協議会は民有林と国有林の連携強化などを図り、九州地域における森林・林業・木材産業の振興に資することを目的としたものです。

今回は林野庁から佐藤肇施工した。冒頭で協議会会長の川端省三や関係機関から44人が出席しま九州森林管理局長がいさづ。

主・間伐の現状と今後の見通しについて認識が共有され、それらをもとに各県の課題や取り組みについての情報提供、意見交換が行われました。素材生産の増加、林業の低コスト化、担

手の育成など議論は多岐にわたり、これまでの間伐主体から主伐の重要性が高まりつつある状況に対して再造林にかかる苗木の安定供給をいかに行うかについても活発な議論が行われま

また会議では他機関への照会や林野庁に対する政策提案が行われ、さまざまな角度から九州の森林・林業についての提言が



先進的取り組み施設を見学する関係者



チップ製造工程を見学

あり、各関係機関が互いの理解を深め、連携協力を推進する良い機会となりました。

二日目の現地視察では、八代市における木材に関連する企業の先進的取り組みについて説明を受けました。日本製紙株式会社八代工場では、建設中の木質バイオマス発電プラントや右炭・チップの輸入に使用する埠頭の様子、日本製紙にチップを納入している南栄株式会社では、原木貯蔵から最新切削機によるチップ製造までの一連の過程を見学しました。また、環境配慮型木材製品を扱う高原木材有限

会社では、木材を用いた地盤補強工法の実演など、さらに木質バイオマスを利用した農業用ハウス加温機の視察も行いました。

2日間の日程を通して各機関担当者によるさまざまな情報交換が行われました。今後、当協議会で議論された内容が森林・林業再生の加速化に寄与していくことが期待されます。

(担当) 企画調整課

自署の名山



宮崎北部森林管理署

八戸森林事務所

森林官 岡田 伸一

鉾岳は、宮崎県の北端、延岡市の北西部に位置し、九州山地に属する山で、祖母、傾山地の東西に連なる膨大な山域を有し、新百姓山、夏木山、五葉岳、鹿納山、大崩山から主峰の鉾岳へ

そそり立つ花崗岩の岩峰 「鉾岳」1277㍎

と連なっています。

鉾岳は、雄鉾・雌鉾と呼ばれている2つの花崗岩の岩峰を有する山で、特に雌鉾スラブは、多くのクライマーを魅了する山でもあります。

また、祖母・傾山や大崩山と

ともに、祖母傾国定公園に指定

されるところにも、「森林生態系保護地域」に指定され、モミ、ツガ、フナ、カエデなどからなる原生林が広がり、世界でここだけに生育するツチビノキやニホンカモシカも生息する希少野



鉾岳の雄鉾と雌鉾の全望



滑り台状の渓谷



世界でもめずらしい「ツチビノキ」



「ツチビノキ」

生動物の宝庫として、豊かな自然が残されています。このように鉾岳は、花崗岩の白亜の岩峰がそびえ立ち、深い原生林を有し、その雄大で圧倒的な山岳景観を魅力とする山です。

登山コースには、幾つかのルートがありますが、一番のおすすめなのが、鹿川キャンプ場へ雄鉾・雌鉾コースです。このコースは、鉾岳の雄大な山岳景観を十分に楽しめるコースですが、急登の連続が多く、十分な気力と体力を要します。また、高所恐怖症の人には、おすすめできません。山頂からは、大崩山、地藏岳、日隠山を望むことができます。皆さん是非一度は、九州の名峰に出会いに来てください。

クリーン活動でゴミの量



トラックに積まれた回収ゴミ＝熊本

【熊本森林管理署】7月23日、「国民の森」クリーン月間の取り組み行事として金峰山周辺熊本自然休養林内の「クリーン活動」を行い、梅雨明けの暑い中、当署職員や熊本市、金峰山地区保護管理協議会、熊本林業士木協会、請負事業体など約50人が参加。不法投棄されたゴミは人目につきにくい林内に放置され、家庭ゴミや家電製品、古タイヤなど用意されたトラックは瞬間に満杯となり、心ない人たちによる行為を改めて知る一日となりました。この活動を通して、不法投棄が減少し、親しまれる自然休養林として後世に継がれていくことを期待しています。

九州域内関係者が結束し 「九州フォレスター等連絡協議会」が発足

8月5日、九州各県及び九州森林管理局のフォレスター等関係者が出席して「九州フォレスター等連絡協議会」（以下、「協議会」という）の発足式を九州森林管理局において開きました。

フォレスター等活動は、2011年度から行ってきた准フォレスター研修了者や各県の林業普及指導員などにより各地で行われていきます。こうした活動は、広域的、長期的視野をもって地域の森林林業の経営レジョンを策定支援するため、経営の集約化や川上から川下までのサプライチェーンの構築などの広



今回の協議会発足式へ参加した関係者

域で多様な観点からの検討が必要であり、県別、民・国別にかかわらず、九州域内関係者の連携強化が重要となっています。

発足式では九州森林管理局川端省三局長及び熊本県農林水産部岡部清志森林局長より祝辞をいただき、長崎県林政課宇土和彰課長補佐を議長に選任し、発足準備委員会事務局より協議会

発足の提案、規約及び今後の進め方などについて説明・質疑を行い、満場一致で協議会発足が承認されました。

今後、本協議会により、九州域内関係者が結束して森林・林業の発展に寄与することが期待されます。

（担当：技術普及課企画官）

森林整備協定運営会議を開催

【宮崎南部森林管理署】8月7日、日南市富土地域森林整備協定に基づく運営会議を森林共

しています。



現地にて協議する関係者＝宮崎南部

「継承」



株式会社
総合農林
代表取締役

佐藤 浩行さん

同施業団地で行いました。この協定は、2011年10月から南那珂森林組合と民有林・国有林合わせて286杉の森林共同施業団地を設定しており、この施業団地内でこれまで行ってきた間伐や路網整備の現況、間伐材の販路、販売状況などについて意見交換を行いました。また、今年度は本協定の最終年度にあたることから、今後は隣接地域も含めた森林整備計画について見直し検討を行い、協定の更新に向けた協議をしていくことと

山の踏査をするときに、適当なところで「もう十分見たな」と判断しがちですが、そこからもうひと谷、もうひと尾根足を伸ばしてみると、意外な見落としや発見があるもの。それは、自

分の納得が本当の納得かどうかを一旦疑ってみる、という教訓でした。具体的技術だけでなく、そういった原理原則を通じて、私

がその上司から学んだ一番大きなものといえば「山への憧憬と

私が学校を出て森林土木のコンサルタントに就職した時の最初の赴任地は長野県、直属の上司は中部森林管理局の設計指導官を退官して民間に再就職された方でした。

現場に行けば黙って後をついて歩き、山の何を見ているのか、何を考えているのか必死で盗もうとしました。カモシカの異名をとる上司との山行はとても辛かったです。

以降の仕事の全ての基礎となった5年間の経験です。数少ない直接の指導のなかで、今でも鮮明に覚えているのは、「山に入って、分かった気になら、もう一步先まで見に行きなさい。」という言葉です。

「ちょっと一言」

仲間川筏下りを支援



イカダ下りを楽しむ子供ら＝西表保全センター

【西表森林生態系保全センター】

竹富町立天原中学校三大行事の一つ「仲間川筏下り」が行われ、森林環境教育の一環として参加・支援しました。当日は、生徒や先生・保護者など総勢54人が参加。午前6時に仲間川河口の大富船着場に集合。出発式で学年別に班の代表が決意表明を行いました。その後、上流の9ヶ地点まで観光船で移動、生徒と教職員数人及び保護者らは前日から用意してあった4艇の手作り筏に分乗。残りの教職員や支援者などは伴走船やカヌーに乗っ

て筏下りを開始しました。1年生チームは最初から独走状態で、2・3年生チームは右へ行った左へ行ったりしながら、流れに乗って下り、上流では水に漂うサガリバナの花を集めるなど、仲間川の自然を楽しみ全員無事にゴールしました。ゴールしてからは父兄が用意した水ぜんざいやかき水をおいしそうに食べ、満足した様子でした。

伊佐地区緑の少年団交流集会開催

【北薩森林管理署】当署と始良・伊佐地域森林・林業活性化

センターなどと連携で、伊佐市高熊山緑の少年団ならびに本城みどりの少年団約30人を対象に伊佐地区緑の少年団交流集会を開きました。はじめに森林の働きなどについて説明を行った後、木工教室ではスギ板を利用した本立てやレターケースを作製しました。また、森林クイズでは種子飛ばし、木の名前当てクイズを行い、木工教室では発想豊かな作品が完成し、クイズでは珍しい木の名前の正解には歓声が出るなど、森林・木材に親しむ有意義な楽しい体験学習とな



体験学習へ参加したみどりの少年団＝北薩



近年地球規模での環境問題が危惧され、地球温暖化緩和策の一つとして国のみでなく県単位で森林(もり)づくりとその維持整備の重要性が改めて見直されている。森林は我々にとってかけがえの無い財産であり我々



滝江康敏さん

は実に多くの恩恵を森林から享受してきた。その森林がにわかにクローズアップされたのは「京都議定書」だろう。2005年2月に日本で発効してから9年以上が過ぎた。これにより日本は1990年を基準として温室効果ガスの削減目標値が決められ、第一約束期間(2008年～2012年)において総排出量比でマイナス6%と設定された。このうちの3・8%分、3分の2近くを森林の二酸化炭素吸収量(森林吸収量)で賄うものとされた。まさに森林が温

森林が果たす役割と森林地域の土地利用のあり方

室効果ガスの吸収源として重要な役割を担う形となった。その森林づくり、即ち「将来に渡って持続可能な森林の維持管理」に関してだが、これまで国は森林吸収量の考え方そのものに非

常には慎重であり、その政策は時代の流れに逆行して保安林維持管理の為に予算削減や、営林署職員の大幅な減員を打ち出した。その為に森林づくりの維持管理が極めて困難になっていくのが現状だろう。また、森林

の安定供給と利用に必要な体制を構築し、官民一体となって林業再生を積極的に推進することが必要だろう。最後に森林地域の土地利用のあり方について述べておきたい。これは本来の木材生産による森林整備事業(健全な林業)に加え、木材生産を対象としない森林の多面的機能(生物多様性、二酸化炭素等の吸収・固定、土砂災害防止・土壌保全、水源涵養、保健・レクリエーション向けの施設整備)といった自然環境の保全等の公益的機能が総合的に発揮し得るような森林の確保と整備が重要だと考える。

この現状を打破し、将来に渡って森林づくりを育て、森林吸収量を確保する為

の施策としては、林業の就業人口の確保対策が喫緊の課題である。安定して将来に渡って保安林の間伐や維持活動をしてもらい、実際活動していく担い手である若年者の林業業界への就労支援や人材育成を軸として木材

(長崎県佐世保市在住)

コンテナ苗供給調整会議 及び生産技術向上検討会を開催

九州森林管理局では、2010年度から4年間でマルチキャビティコンテナ苗を約55万本植栽していきます。今後、主伐・再造林の推進に伴い国有林の需要増が見込まれ、コンテナ苗の生産拡大と安定供給を図ってもらうことが極めて重要であることから、需給調整と生産者の育苗技術向上のための経験や知見及び研究成果の情報を共有してもらうため、7月24日～25日の2日間、九州各県の樹苗生産組合、県林務担当者、県研究機関、森林総合研究所、育種センター、日本林業技術協会、九州森林管理局の職員など約80人が出席し



冒頭あいさつをする矢野森林整備部長

て「平成26年度コンテナ苗供給調整会議及び生産技術向上検討会」を開きました。

コンテナ苗供給調整会議では、冒頭、矢野彰宏森林整備部長から「コンテナ苗増産のため九州全体で安定供給が可能となるよう皆さんで力を合わせて取り組んで頂きたい」とあいさつ、工藤孝森林整備課長から今後の九州国有林の苗木需要の動向などについて説明。併せて今年度と来年度の各県苗連の出荷量を元にした供給計画について苗木の調整を行いました。来年度の国有林需要量においては苗木が不足しており各県の生産者に対し、秋挿しによるコンテナ苗の増産を要望しました。

意見交換では苗木需要増大に伴い穂木が不足している。また、穂木を採る人も少なくなってきた。また、採穂技術の継承が喫緊の課題であるとの意見が出され、など活発な議論となりました。引き続き、コンテナ苗生産技術向上検討会に移り、同部長より「低コスト造林を進める上で、キーとなるコンテナ苗を普及していくことが重要であり、皆さんで情報を共有するこの機会を役立てて頂きたい」とのあいさつ。その後、苗木生産者2人からコンテナ苗生産技術の紹介と今後の課題について報告があり、また、森林総合研究所九州支所からコンテナ苗植栽試験地の報告と林木育種センター九州育種場からエリートツリーの普及に向けた取り組みについて報告がありました。

翌日は熊本森林管理署管内にある2010年度コンテナ苗植栽箇所についての現地検討会、普通苗との成長量比較データ等について紹介し意見交換後、濱田秀一郎技術普及課長のあいさつで閉会しました。

(担当) 森林整備課 技術普及課

安全運転講習会へ参加

【宮崎南部森林管理署】日南地区安全運転管理者等協議会主催の安全運転講習会が日南自動車学校で開かれ、日南地区の各事業所から約50人が参加。当署から本年度新規採用者の遠山祐吏技官が参加。飲酒状態体験コーナーでの自動車学校内コースの運転。特設コースでの急ブレーキテストなど日頃経験することのできない運転操作を体験しました。「OD式安全性テスト」



指導員の指示を受ける参加者＝宮崎南部

民有林協定者と技術の向上

では、注意力、判断力、決断力、事故へ繋がる危険運転行動傾向が診断され、今後の運転事故防止に大いに役に立つ講習会でした。



採材について検討する関係者＝大分西部

人のうごき

【大分西部森林管理署】当署では、大分北部及び西部流域の三地域において森林整備推進協定を締結しており、運営会議のほか、現地検討会を開くなどとして協定者の技術と情報の提供に努めています。今年度は、国有林の間伐実行箇所において、職員及び事業実行中の事業体との生産・販売研修に参加を呼びかけました。研修は、採材の検討と路網作設について行い、採材においては4畝を基本に3畝、2・5畝に採材するなど、有利販売に向け積極的な意見交換が行われ、採材技術の重要性を改めて認識した研修となりました。

- 9月1日付森林管理局長発令 企画調整課林政推進係長
- 田中優哉 (森林技術・支援センター)
 - 森林技術・支援センター業務係長
 - 田中和利 (総務企画部付)
 - 佐賀署地域技術官
 - 片岡猛 (佐賀署)
 - 大分西部署地域技術官
 - 大久保和人 (大分西部署)
 - 西都児湯署
 - 清田泰志 (宮崎南部署)
- (担当) 総務課

熊本県立芦北高校林業科生が 林業実践体験研修を受講

熊本県から地域林業実践体験推進事業の委託を受けた、水俣芦北森林組合からの依頼により熊本県立芦北高等学校林業科2年生5人を対象に九州森林管理局と監物台樹木園において体験研修を行いました。



講師の説明を真剣に聞く生徒ら

監物台樹木園では、技術普及課の小谷豊緑の普及係長の指導で、「はっぱじゃんけん」でリラックスした後、園内を散策しながら樹木の特徴や葉の構造、用途についての講習を受け、講師から「スギの葉がなぜ互生なのか」などの説明や、実際にキハダの樹皮をかじってみてその

苦さに顔をしかめながらも、説明に真剣に聞き入っていました。午後からは局研修室において、上田浩史業務管理官、迫口親保全課長より講義を受けました。

まず最初に、迫口親保全課長から、入庁時からの体験談を含め、林野庁の業務内容、国有林の現状、局の取り組みなどについての話があり、研修生からは「転動して楽しかった事は」など具体的な質問がありました。

その後、上田浩史業務管理官から「森林・林業の現状と課題」と題し、戦後の植林など森林整備の歴史や人口減少による森林電などの森林の現状と課題、産業と雇用などの林業の成長産業化についての話がありました。研修生からは「コンテナ苗の植付面積は」「捕獲したシカの利用方法は」などの質問が出るなど林野業務への関心の高さがうかがえました。

この研修中「来年林野庁の採用試験を受ける人は」との質問には全員が手を上げており、研修生には貴重な体験研修となりました。

ました。

(担当：総務課)

クリーン活動を長岡合同で実施



クリーン活動へ参加した関係者＝長崎

【長崎森林管理署】毎年7月期の「国民の森林・クリーン月間」に併せ、西海市の不法投棄箇所においてクリーン活動を行いました。当日は西海市役所と西海警察署、ボランティアとして合資会社小場組の協力のもと合同で行い、炎天下の中、総勢20人で警告看板の設置やゴミ収集、のぼり旗を設置し通行車両に対する啓発活動を行いました。収集したゴミはトラック2台となり、このような大量な不法投棄が2度と繰り返されないよう、市役所や警察などと、なお一層連携して「パトロールの強化」を図ることにしています。

ダムフェスタで国有林をPR

【熊本森林管理署】「龍門ダムフェスタin菊池」が開かれ、当署も木工教室、火起こし体験コーナーを設け参加。菊池高校生による「ギネスに挑戦世界一そうめん流し」に、大勢の家族連れが訪れ、丸太切りでは、思うように切れず苦戦する子供らが、職員や両親からの指導を受けながら一生懸命挑戦していました。切った丸太は思い思いのペンダントや鉛筆立てに仕上げ、満足の表情でした。火起こし体験では、火がつくと大きな歓声があがりました。当署コーナーには多くの子供らが集まり、大盛況で国有林をPRできた有意義な一日となりました。



火起こし体験をする子供ら＝熊本

精鋭5人が弁甲競漕大会へ挑む

【宮崎南部森林管理署】「油津港まつり2014弁甲競漕大会」に当署から5人が出場。この大会は、山から切り出した鉄肥杉を筏に組み、運河を使って油津港まで運び、船積みされたもので14回目となりました。当日は県内外から約140チームが参加。長さ6呎の弁甲材にまがりオールを漕ぎ、往復200呎のコースで順位を競うもので、当署チームは、今年も「山火事用心」のロゴ入りのオブジェで参加。背負った杉のオブジェが重かったのか決勝に残ることは出来ませんでした。「国有林」を大いにPRすることができました。



すばらしいオブジェで参加＝宮崎南部

管理医の吉田院長が衛生講話

「脂質異常症」について学ぶ

局大会議室において、当局の健康管理医である表参道吉田病院吉田仁爾院長を講師に招き、局職員を対象に「脂質異常症」について衛生講話を開きました。

講話では、心疾患・脳血管疾患の原因としてメタボリックシンドロームがあり、腹囲及びHDLコレステロールのチェックが必要であることや、食生活の欧米化により沖縄県の平均寿命が大きく低下した「沖縄クライシス」という現象について話されました。また、中性脂肪、LDLコレステロール、HDLコレステロールの働き、脂質異常症のタイプ、どのような人がな

りやすいのか、脂質異常症によって引き起こされるさまざまな疾患について豊富な話題講話がありました。

最後に、治療の主役は「生活習慣の改善」であることから、食事療法や運動療法のポイント、治療薬の紹介など、日常生活の中で実践できる事例を分かりやすく話していただきました。

今回の講話が、各職員の今後の健康づくりに役立つとともに、明るく健康的な職場づくりの一助となれば幸いです。

(担当)総務課



吉田院長先生の講話を聞く職員

西都市の高校生が職場体験

【西都児湯森林管理署】地域の発展に寄与できる人材育成のため、宮崎県立妻高等学校からの依頼で、3人の男子生徒が体験実習を行いました。

はじめに森林・林業の現状と国有林の役割について秋山郁男署長が講義。その後、保育間伐の請負現場や潮害防備保安林箇所での消波工や防風工を見学。職員の説明に生徒らは熱心に耳を傾けていました。また、猛暑の中で下刈り作業を体験。この体験が、将来

の森林・林業に携わるきっかけとなってもらえると幸いです。



現地で指導を受ける生徒ら＝西都児湯

「トクメツ」自然公園



2013年4月1日、沼田林野庁長官から、鹿児島森林管理署長の辞令を拜命。鹿児島と言

えば真っ先に思い出すのが西郷隆盛である。私はこの西郷隆盛と少し繋がりがあ

西郷さんの故郷で勤務して

2013年4月1日、沼田林野庁長官から、鹿児島森林管理署長の辞令を拜命。鹿児島と言

【熊本南部森林管理署】水上村市房キャンプ場において、地の小学生など約30人が参加し、「ゴイシツバメシジミ自然観察会」を行いました。講師に九州大学の三枝豊平名誉教授と九州大学総合研究博物館専門研究員杉本先生を迎え、シツバメシジミを君たちの村、水上村の「自然遺産」にテーマに産卵、孵化から幼虫期、羽化までの変化や、餌となるシシランを育てる市房山の照葉樹林の大切さなどについて、質問を交えながらゴイシツバメシジミの保護の重要性を学びました。その後、シシランを移植した場



双眼鏡で観察する子供ら＝熊本南部

はまさに西郷隆盛を彷彿とさせる。また、同氏は、関係省庁、政界関係者に知り合いが多く、日本の農林水産業発展のため大きな視野で議論されている姿が、西郷隆盛の姿とよく重なって見えたものである。

そんな西郷さんの故郷鹿児島県は、西郷隆盛以外にも、島津義久、義弘兄弟、島津斉彬公、天璋院篤姫、小松帯刀、大久保利通、東郷平八郎など勇猛果敢かつ知略・機略に秀でた多くの

(鹿児島森林管理署長

平沼 孝太)

つ西郷正道氏(現・農林水産省生産振興審議官)で、その風貌

けた取組を行っている。このようなかで仕事ができることを有り難く思いながら日々勤務している。

森林技術官連絡会議を開く

【鹿児島森林管理署】 県内森林管理署の森林技術指導官連絡会議を開き、霧島市福山町の砂田樹苗園で、コンテナ苗の勉強会を行いました。砂田博文社長からコンテナ苗の育苗方法や穂木の採集、優良品種などについて説明がありました。また、社員の通年雇用の体制づくりで多くの苦勞話やさらに「人工林が本格的な利用期を迎え、豊富な森林資源を循環利用することが最も重要であり、今後の主伐・再造林に向け取り組んでいきたい」と社長の厚い意気込みが伝わって来ました。今後、苗木の需要が一層増えることが予想され、苗木の生産拡大や安定供給に向けた体制づくりやエリート



コンテナ苗の説明を受ける参加者＝鹿児島

ツリーなど優れた種苗の生産に取り組んで行くことが期待されるということです。

「ふれあいの森」協定締結

【西都児湯森林管理署】 木城町駄留地区公民館において、「ふれあいの森」協定締結の調印式を行い、地区住民や宮崎県児湯農林振興局、同鳥獣被害対策支援センター、木城町などが出席。協定は、当署と木城町の駄留地区鳥獣対策協議会が、同地区に隣接する国有林13・40畝

を「駄留桜々の森（だどめさくらのもり）」として設定し、除間伐や、植栽・歩道整備・自然観察会などを行う森林・林業教育活動の場や地域住民の憩いの場として活用していくことを目的としています。本協定は集落の鳥獣被害区域の緩衝帯として、同協議会が自主的に森林整備などが出来、併せて本協定を軸として森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用しながら、駄留地区の田畑や民有林を一体とした鳥獣被害防止対策への一層の取り組みが期待されます。



葉が多く、剪定しやすいくことから20年くらい前から街路樹に植えられるようになり一般に知られるようになりました。温帯林の落葉樹は秋に一斉に落葉しますが、暖かい地方の葉は、季節に関係なく葉の寿命がくれば落葉します。ホルトノキも暖かい地方に生える木で季節に関係なく葉の寿命がくると落葉します。そのため1年中、樹冠に赤い葉が見られる樹木です。

花を観察するときは、1枚の白い花弁を手にとって観察すると、中央部まで糸状に分裂しており驚かれると思います。また、

を「駄留桜々の森（だどめさくらのもり）」として設定し、除



調印式を終えた関係者＝西都児湯

間伐や、植栽・歩道整備・自然観察会などを行う森林・林業教育活動の場や地域住民の憩いの場として活用していくことを目的としています。本協定は集落の鳥獣被害区域の緩衝帯として、同協議会が自主的に森林整備などが出来、併せて本協定を軸として森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用しながら、駄留地区の田畑や民有林を一体とした鳥獣被害防止対策への一層の取り組みが期待されます。

この木の確認は、葉裏をルーペで見ると、主脈と側脈の交わる箇所に水掻き状の膜を確認することで同定できます。

名前は、あの有名な平賀源内が、この木を見てオリブの木と思っただことからの名前だそう、有名人の間違いは訂正されることなく歴史を刻んできたようです。果実は核果で楕円状はじめ緑色ですが、冬になって熟すると黒青色となります。中の核は木質で大きく表面にシワがあります。樹木園中央部、東側に高さ8mの木があり、葉に手が届きますので目の高さで



今年の夏は雨の日が続き気温も低めに推移したことから、日照不足や多雨が農作物の生長に影響を及ぼすとともに、夏場に売れるエアコンなどの商品の売れ行きが不振だったという記事が新聞に掲載されました▼確かに今年の夏は傘のお世話になった日が多かったように思われます▼農作物の出来はその年の天候・気温に左右されることから、農家の方にはいつもの「暑い夏」であることも必要なことなのだ、涼しい夏を期待した身を反省したところ、大雨の被害では、8月20日に発生した広島市の土砂災害において2人の方が亡くなられ、この原稿を書いている時点で2人の方がいまだ行方不明という甚大な被害をもたらしました▼この災害では行政側の連絡不備や対策の遅れなどが問題となりましたが、先般、避難勧告・指示が一部解除され、多くのボランティアの応援もあり、これから更に復旧への対策が進んでいくものと思えます▼お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、一日も早い災害復旧を願っています。(也)